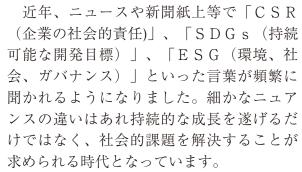
|で|み|た|い

大阪産業経済リサーチ&デザインセンター 研究員 木村 和彦

『これからの「社会の変え方」を、 探しにいこう。

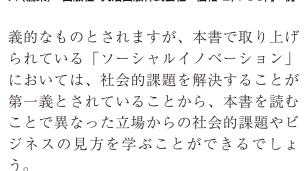
●著者名 一般社団法人ソーシャル・インベストメント・パートナーズ(編集) 出版社 英治出版株式会社 価格 2,700円+税



このような時代を背景に、本書では「気 候変動、環境汚染、食糧や水の確保、貧 困、人権等といった社会のニーズと課題に 対してまったく新しい解決策を発明し、 支援を得て、社会に実装するプロセス」が 「ソーシャルイノベーション」であると 定義し、現場にいる実践者や研究者が行っ てみたことからの知見をまとめた『スタン フォード・ソーシャルイノベーション・レ ビュー』という米国スタンフォード大学の ビジネススクールから生まれた雑誌に掲載 された論文10本が掲載されています。

論文タイトルは、「ソーシャルイノ ベーションの再発見」、「システムリー ダーシップの夜明け」、「あなたのエンド ゲームは何か?」、「規模の拡大を目指 して」、「大きなインパクトの生み出し 方」、「グローバル企業に広がるBコー ポレーション」、「社会を動かすカーブ カット効果 | 、「投資の可能性を拓く | 、 「デザイン思考×ソーシャルイノベーショ ン」、「コレクティブ・インパクト」で、 それぞれ独立したものですので、タイトル を見て興味のあるものから読んでいくこと が可能です。

通常のビジネス発想では、採算性が第一



わからの

また、ビジネスと社会的課題解決は対立 するものではなく、「ソーシャルイノベー ション」がビジネスとして成り立つ可能性 があることも実例を以って知ることができ ます。「投資の可能性を拓く」では、営利 目的型(営利事業として成立する)、低利 益許容型(収支が若干プラス~プラスマイ ナスゼロ)、助成金型(他のセクションか らの金銭的サポートが必要)というように 「ソーシャルイノベーション」を分類して 投資を行っている組織(オミディア・ネッ トワーク)について述べられています。 「SDGs」等に取り組む中、同様の考え 方を採用することで、新たなビジネスチャ ンスの発掘につながる可能性も高めること ができるのではないでしょうか。

【著者略歴】

・ジェームズ・A・フィルズ・ジュニア(ス タンフォード大学経営大学院センター・ フォー・ソーシャルイノベーション(CS I) 理事、社会起業家、非営利リーダー、 助成団体向けのエグゼクティブ・プログラ ムを監修。著書に『非営利組織における ミッションと戦略の統合』 (未訳))、そ の他にクリス・ダイグルマイヤー、デイ ル・T・ミラー等。